

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

小09 町田市立本町田東小学校

学力調査等の状況	
<p>今年度の全国学力・学習状況調査を見ると、平均正答率は、国語は3.2%、算数は1.5%全国平均より低く、昨年度に比べるとその差は小さくなっている。国語では「話すこと・聞くこと」の領域は全国平均との差は0.2%であり、これまで続けてきた校内研究の一定の成果が挙げられていると考えられる。算数では「変化と関係」の領域が全国平均より0.7%上回った。その他の領域は全国平均を下回ってはいるものの、その差は5%以内になっている。ただし、質問紙調査を見ると、「家で自分で計画を立てて勉強していますか。」に対して、肯定的回答をした児童は50%に留まっている(全国平均は70%)。また、「読書は好きですか」という質問に対しては、全国の肯定的回答が71.8%に対して、本校は85.7%と約14%高い結果となった。これは、研究の一環として取り組んできた「朝読書」が定着し、本に親しもうとする意欲が向上した結果と考えられる。</p>	

見えてきた課題	
<p>調査の結果から、これまで重点を置いて取り組んできた「基礎学力の向上」を、今後も継続して意識し、指導することが大切であると考えられる。特に今年度は、校内研究を「算数科」に設定し、モジュールを活用した基礎学力の向上と、研究授業を通じた対話的な学びや表現力・表出力の育成を目標としている。そのために、モジュールの時間には、現在の学習と関連を意識した指導を行う。また、家庭学習の定着について、質問紙調査において課題が明確になった。宿題の出し方や個別最適化を意識した課題設定の在り方、家庭との連携の仕方などを教員間で共有しながら、学習ソフト「Navima」も活用させ、既習事項の定着を図っていく。</p>	

授業をデザインする8つの取組について	
見通しをもたせる導入	導入では児童の疑問や意欲を大切に教材提示をする。前時とのつながりや違い等を示し、児童が学ぶ目的や必要感をもち、主体的に問題解決に向かえるようにする。
発問の工夫	児童が深い思考ができるような発問を取り入れる。思考のゆさぶりをかけたり、児童の発言をファシリテートするような発問をすることで、主体性を高める。
ICT機器の活用	日常的に授業で活用し、定期的に家庭に持ち帰り、個別最適学習ドリルに取り組む。児童は意見共有、調査活動や学習のまとめなど、効果的に活用できるようにする。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	2020年度までの校内研究の流れを受け、各単元において必要感のある言語活動を設定し、それに向かつて学習を展開できるように、指導計画を充実させる。日常において全校共通した話型を使い、児童同士が関わり合いながら問題解決する授業展開を行う。読書活動や辞書の活用を通して語彙を増やし、言語感覚を高めるようにする。	根拠となる言葉や文章に着目させることで自分の考えをもたせ、読みの力を付ける。朝のスピーチでの日常的に話す・聞く活動を行い、話す・聞く力の向上を図る。朝読書や読み聞かせ、視写・聴写の活動、覚えたい言葉・使いたい言葉の掲示等を通して言葉への関心を高め、語彙を高める。	根拠となる言葉や文章に印を付けて自分の考えをもたせることで、叙述に即した読みの力を付ける。朝のスピーチや詩の暗唱など、帯の時間を使って話す・聞く活動を行い、話す・聞く力の向上を図る。朝読書や辞書引き、使いたい言葉の掲示等を通して言葉への関心を高め、語彙を高める。	学習計画の提示や話題に対して、賛成・反対の意見をもたせることから始めることで自身の考えと対比しながら話を聞き、自己の意見を発表する機会を作る。「文章中の言葉」「キーワード」等の言葉かけをすることによって叙述に即して読む活動を促していく。スピーチなど日常的な活動から自分と比較しながら考えて話す・聞く力の伸長を目指す。
社会科	基本的な資料の読み取り方を指導することにより、どのような社会的現象が生じているのかを理解させる。特に、実生活に結び付けながら資料が活用できるように必要な知識を身に付けさせる。また、読み取ったことについて、比較検討したり関連付けたりできるようにする。さらに、現状に対する評価をまとめとして表しながら、将来に向けて身に付けた知識や技能をどのように生かしていけるのかを考える力を身に付けさせる。	3年生の地域学習に向け、生活科で探究学習をする。学校の校庭の様子、学校の周辺、学区の施設や公園、樹木や草花について目を向けさせる。また、調べたことを紙芝居やポスター、マップといった様々な方法で表現する力をつける。	社会的現象を理解できるよう、生活と結びつけて考えたり辞書引きを行ったりする。資料から何が読み取れるか、考える活動を大切に。複数の資料を提示し、比較・関連付けて考えられるようにする。地域に出かけ、実際に話を聞いたり調べたりすることで、生活との結び付きを実感させるとともに、学んだことを生活に活かすようにさせる。	社会的現象を理解できるよう、産業や歴史、政治などに関する資料から必要な情報を読み取ったり、複数の資料について、関連付けて読む活動などを行う活動大切に。インターネット等を利用して、必要な資料を収集し選択したり、資料をもとにプレゼンテーション活動などを行ったりすることで、資料を活用し情報を発信する力を養う。
算数科	算数少数委員会で、対象の3～6年生の担任と協議・連携して、主体的に対話的な学習を取り入れた授業を行う。日々の授業の流れやノート指導を一貫して行う。東京ベシックドリル診断テスト等の結果を分析して課題に応じた手だてを講じ、復習や補習に役立て、基礎学力の底上げを図る。さらに、D層の児童の取り出し、補習学習を通して知識・技能を習得させる。	2023年度校内研究と関連させ、自分の考えを主体的に表現・表出する力の向上と、四則計算を中心とした基礎学力の定着に重点をおく。 ①導入の工夫 具体的で身近な生活場面からの導入 具体的な活動、操作の重視 ②発問の工夫 ねらいにせまるための明確な問い・情報提示 「説明したい」「聞きたい」意欲を引き出す対話場面の設定 ③振り返りのさせ方の工夫 学びや感情を言語化する指導の積み重ね	2023年度校内研究と関連させ、自分の考えを主体的に表現・表出する力の向上と、四則計算を中心とした基礎学力の定着に重点をおく。 ①導入の工夫 経験や既習学習からの見直し、自力解決の重視 解決する必要感のある問題設定 ②発問の工夫 ねらいにせまるための明確な問い・情報提示 「説明したい」「聞きたい」意欲を引き出す対話場面の設定 ③振り返りのさせ方の工夫 学習過程の振り返り、学習内容の確認、次への意欲向上について言語化、表出する指導	2023年度校内研究と関連させ、自分の考えを主体的に表現・表出する力の向上と、四則計算を中心とした基礎学力の定着に重点をおく。 ①導入の工夫 経験や既習学習からの見直し、自力解決の重視 解決する必要感のある問題設定 ②発問の工夫 ねらいにせまるための明確な問い・情報提示 「説明したい」「聞きたい」意欲を引き出す対話場面の設定 ③振り返りのさせ方の工夫 学習過程の振り返り、学習内容の確認、次への意欲向上について言語化、表出する指導
理科	問題ー予想ー実験ー観察ー結果ー考察ー結論の流れを重視した授業を展開し、必然性を伴った課題を設定し、自然の事物・現象について実感を伴いながら理解できるようにする。実社会・実生活との関連を図るとともに、習得した知識・技能を実際	生活科において、直接自然に親しむ活動を多く取り入れ、関心や意欲をもてるよう。アサガオの花や実、種の観察を行う。色や数、形を科学的な視点で捉えられるように声掛けし、よく見て絵を描かせる。また、日記やスピーチの題材として日常の中か	理科の学習の流れ(問題ー予想ー実験ー観察ー結果ー考察ー結論)を理解させ、それに沿った思考を促していく。初めて行う観察や実験がスムーズに行えるように、また観察や実験によって思考が深められるよう、環境を整備する。科学的現象を実生活	理科の学習の流れ(問題ー予想ー実験ー観察ー結果ー考察ー結論)に沿った思考を促していく。実験方法の設定や結果の考察の際に、児童が話し合い、協働して学習を進める場を設定することで、実験・観察における条件制御や、現象の要因、規則性、関

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

	の自然や日常生活に当てはめて考察させることで、理科を学ぶ意義や有用性を実感させる。	ら疑問や不思議について考えさせ、文章に書かせたり発表させたりして問題意識をもたせる。	と関連付けて考えさせることで、主体的に学び、学びの有用性を実感できるようにする。	係を推論する力を養うとともに、主体的に学び、学びの有用性を実感できるようにする。
<b>各教科における課題を改善するための指導の重点</b>				
	<b>年度当初に設定した重点</b>	<b>低学年</b>	<b>中学年</b>	<b>高学年</b>
<b>生活科</b>	児童自らが考え行動する授業スタイルを目指す。地域の特色を生かした合科的指導計画(モデルカリキュラム)を実行する。人や地域と積極的に関わる体験を積み、総合的な学習の時間に向けて課題解決する力を培う。	児童の興味・関心に基づいた学習計画を作成し、主体的に学習活動に取り組ませる。ボランティアアコーディネーターと連携を図りながら、地域の人材を活用して活動内容の充実を図る。学習のまとめとして、ポスターセッションによる発表や学習発表会等を実施することで、自分たちの学びをすすんで表現する基礎を養う。	/	/
<b>音楽科</b>	課題を明確にし音楽の基礎・基本と関連付けて表現活動ができるよう学習の進め方、教材選びを進める。グループ活動を多く取り入れ、児童同士で考えを深め合う主体的で対話的な学習を取り入れ様々な表現活動を得る時間をつくる。音楽のよさや楽しさに関心をもって聴く力を身に付け、思いや意図を言語や書くことで表現できるように文章にまとめる習慣を付ける。	○楽しく学習していく内容が、どんな音楽の要素と結びついていくのか見通しをもたせる。 ○音楽を聴いて感じたことと気付いたことを教師が整理することで、曲想と音楽の構造との関わりなどに気付き、表現、鑑賞、音楽づくりを楽しむ。 ○楽曲に対する思いを、言葉や身体表現などで表出させ、曲や演奏の楽しさを共有できるようにする。 ○楽しく音楽に関わるような場、教材の準備をできるだけ多くし、音楽体験を豊かに重ねられるようにする。	○進んで学習した内容がどんな音楽の要素と結びついていくのか見通しをもたせてもたせる ○音楽を聴いて感じたことと気付いたことを整理して発問することで、曲想と音楽の構造との関わりなどに気付き、表現、鑑賞、音楽づくりに活かす。 ○楽曲に対する思いや意図を、言葉・演奏・身体表現等、様々な手段で表出させ、曲や演奏の良さを共有できるようにする。 ○進んで、協動的に音楽に関わるような場の設定を工夫し、様々な音楽体験をかさね、次の学習に活かしていく。	○主体的、共同的に学習した内容がどんな音楽の要素と結びついていくか見通しをもたせてもたせる○音楽を聴いて感じたことと気付いたことを整理して発問することで、曲想と音楽の構造との関わりなどを理解し、表現、鑑賞、音楽づくりに活かす。 ○楽曲に対する思いや意図を、言葉・演奏・身体表現等、様々な手段で表出させ、曲や演奏の良さと価値を共有できるようにする。 ○主体的、協動的に音楽に関わる場を設定し、これまでの学習してきたことをいかしたり、つながりを考えてたりして学習を進められるようにする。
<b>図画工作科</b>	ねらいを明確にし、各自が活動への思いをもって表現を工夫し、楽しく取り組めるように、教材・学習の進め方を工夫する。自分なりの発想を大切にするとともに、協同的探究学習を取り入れ発想のきっかけを広げる機会とする。作品を鑑賞し合い、互いの良さを認め合う。また、自分の活動を振り返り、次時の学習につなげるため、文章や絵でまとめる習慣を付ける。	発問の工夫を通して、学習内容の理解をしやすくし、活動への意欲を高める。さまざまな表現や考えを発表したり、紹介し合ったりすることを通して、次へのつくる、見る活動に繋がられるようにする。 振り返りを通して、自他の表現や考えのよさを共有し、尊重し合い、次への学習に活かす。	発問の工夫を通して、学習内容の理解を促し、活動への意欲を高める。さまざまな表現や考えを対話、共有することを通して、自らのつくる、見る活動を高めることができるようにする。 振り返りを通して、自他の表現や考えのよさを共有し尊重し合い、次への学習に活かす。	発問の工夫を通して、学習内容の理解を図り、活動への意欲を高める。さまざまな表現や考えを対話、共有することを通して、自らのつくる、見る活動に繋がられるようにする。 振り返りを通して、自他の表現や考えのよさを共有し尊重し合い、次への学習に活かす。
<b>家庭科</b>	日常の家庭生活を楽しく、より良いものにしていけるよう関連付けて学習に取り組ませる。 基礎基本を大切にし、生活に役立て技能を身に付けさせる。 関心・意欲を継続させるため、日常生活と関連付けた授業を行う。	/	/	日常生活を想起させる導入の工夫を行い、家庭科での学習を普段の生活に活かそうとする態度を育てる。児童の実習活動や制作活動では、一人ひとりの思いを大切にしながら作業をさせる。 基礎基本については、一斉指導に加えて、ボランティア等を積極的に活用しながら個別指導も充実させる。完成した作品の紹介や実践後の感想などを交流する振り返りを通して、身に付けた技能や考え方などを確かめさせる。
<b>体育科</b>	年間を通して児童が楽しみながら自然に身体を動かしたくなるような時間と場所の工夫をし、体力の向上につながる場を設定する。各種カードの活用や記録等の掲示をすることで目標をもって取り組めるようにする。体育的活動を通して児童の運動の日常化を図るとともに心身ともに健康な児童を育てる。	○本時の学習内容について見通しをもたせ、主体的に学習に参加する態度を養う。 ○遊びながら、中学年の技能につながるような場を設定することができるよう、ペアやグループ活動を取り入れよい動きや真似したい動きを共有できるようにする。 ○できたこと・わかったことを自分の言葉で振り返ることができるようにする。	○本時の学習内容について見通しをもたせるとともに課題を整理して、主体的に学習に参加する態度を養う。 ○ペアやグループ活動、ICTの活用を通して、互いにアドバイスをし合ったり、チームの作戦を選んだりする場を設定する。 ○振り返りの活動を設定し、動きや取り組み方等について意見を交流させ、次時の課題設定を行う。	○本時の学習内容について見通しをもたせ課題確認を行い、主体的に学習に参加する態度を養う。 ○ペアやグループ活動、ICTの活用を通して、互いにアドバイスをし合い、チームの作戦を選んだり考えたりする場を設定する。 ○振り返りの活動を設定し、動きや取り組み方等について意見を交流させ、問題発見して次時の課題設定を行う。
<b>外国語科</b>	外国語に慣れるため、歌やチャンツ、ゲーム、対話など、楽しみながら外国語を話す活動を多く取り入れる。一時間の中で、同じ表現を活動を変えながら繰り返し話すことにより、安心して発話できるようにする。「書く」活動を取り入れ、中学英語につながるようにしていく。	/	/	単元ごとの目標語句や目標表現を明確にし、言語活動を通じた指導に取り組む。授業において、ALTやMEPSを積極的に活用し、声に出して表現に慣れ親しむ活動を多く取り入れる。モジュールの時間を活用して、基本的な書く活動(簡単な英作文やスピーチ原稿作り等)に取り組ませる。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
特別の教科 道徳	<p>自己を見つめるとともに、他者理解を深める場を設定した授業を展開する中で、思いやりの心を育むとともに、道徳実践力を高める。</p> <p>社会生活のルールを身に付け規範意識の向上を図るため、道徳授業地区公開講座等を生かし、家庭・地域と連携した指導を推進する。</p>	<p>○ICT機器や場面絵などを効果的に使いつながら、児童が教科書で取り上げる価値項目に興味・関心をもつことができるような導入を工夫していく。</p> <p>○ワークシートでは、書く長さや書くポイントを吟味し、自分の考えを表現しやすくなるように工夫する。</p> <p>○友達の発言をしっかり聞いたり、自分が考えたことを発表したりすることを通して、多様な考え方に触れさせた上で内容項目の深い理解につなげていく。</p>	<p>○教科書で取り上げる価値項目の理解が深まるように資料提示を視覚化するなどの工夫をし、児童が教材に興味・関心をもつことができるように導入を工夫する。</p> <p>○1年間ノートを使って自分の考えを書かせることで、自己の考えやこれまでの学習を蓄積し、振り返ることができるようにする。</p> <p>○友達の発言を受容的に聞いたり、自分の考えと関連させて発言させたりすることで、内容項目の深い理解につなげていく。</p>	<p>○教材解釈を丁寧に行うことで、児童に考えさせたい内容項目について考えを促すような導入を工夫する。</p> <p>○1年間ノートを使って自分の考えを書かせることで、自己の考えやこれまでの学習を蓄積し、振り返ることができるようにする。</p> <p>○友達の発言を受容的に聞いたり、自分の考えと関連させて発言させたりすることで、内容項目の深い理解につなげる。振り返りの導入において、自己の経験と結び付けさせることで、より実感をもって内容項目の深い理解に迫る。</p>
外国語活動・英語活動	<p>外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、音声の違い等に気付くとともに、基本的な表現に慣れ親しむようにする。身近な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。言語やその背景の文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら主体的に外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	<p>○同じ絵本を複数回使用し、毎時間の目標表現に合わせた視点で繰り返し読むことを通して、基本的な英語表現に慣れ親しめるようにする。</p> <p>○季節に応じた外国の文化を紹介する活動を取り入れることで、異文化への関心や理解を高める。</p> <p>○教師(ALTやMEPS含む)児童間、児童同士で英語を話したり聞いたりする活動を多く取り入れることで、外国語でコミュニケーションをとる楽しさを味わわせる。</p>	<p>○各Unitや毎時間の目標語句や目標表現を明確に提示し、それを繰り返し話したり聞いたりする言語活動を設定して基本的な表現に慣れ親しめるようにする。</p> <p>○毎時間のめあてを明確に提示するとともに、めあてに対する振り返りの時間を設定して、できるようになったことやこれから学びたいことなどを表現させ、「主体的な学び」につなげるようにする。</p>	/
総合的な学習の時間	<p>地域の特色を生かしたカリキュラムを設定し、人との関わりを大切にしながら進めていく。</p> <p>クラス、学年、低中高縦割り集団などさまざまな集団で学習を進める。</p> <p>担任、T. T、ゲストティーチャーなど指導体制を工夫する。</p>	/	<p>ボランティアコーディネーターと連携を密に図り、地域の施設や人材を積極的に活用できる学習活動を展開する。学習した成果を他学年や学校全体、地域等に発表する機会を確保し、能動的に問題解決学習に取り組みさせる。それぞれの学習活動において、ICT機器を積極的に活用する。</p>	<p>ボランティアコーディネーターと連携を密に図り、地域の施設や人材を積極的に活用できる学習活動を展開する。ポスターセッションやICT機器を使ったプレゼンテーション等、様々な発表形態を経験させることを通して、自分の考えを積極的に表出しようとする態度を育成する。</p>
特別活動	<p>学級・学年集団をはじめとし、互いに尊重し合う中で、安心して自分を表現することのできる集団を育てる。</p> <p>一人一人が、集団の中で存在感をもち、他と協力して互いに高めあい、楽しい学校を築こうとする自主的・自発的な態度を養う。校内研究において研究領域として設定し、児童が自発的、自治的に話し合いや実践に取り組めるように指導の工夫を行う。</p>	<p>学級活動(1)において、「みんなで取り組みたいこと」に目を向けさせ、よりよい人間関係や学級生活を築くために必要な議題を選び、話し合いを活用しながら話し合い活動に取り組ませる。実践活動にも継続して取り組ませ、一連の学習過程を繰返すことで、自己肯定感や自己有用感を高めていく。学級活動(2)(3)において、学級活動(1)の話し合いの経験を生かし、自己の目標を意思決定させ、友達からの評価も取り入れることにより、よりよく生活しようとする態度を育てる。</p>	<p>学級活動(1)において、児童に学級生活の諸問題に目を向けさせ、よりよい人間関係や学級生活を築くために必要な議題を選び、主体的に話し合い活動に取り組ませる。実践活動にも継続して取り組ませ、一連の学習過程を繰返すことで、自己肯定感や自己有用感を高めていく。学級活動(2)(3)において、学級活動(1)の話し合いの経験を生かし、自己の目標を意思決定させ、友達からの評価も取り入れることにより、よりよく生活しようとする態度を育てる。</p>	<p>学級活動(1)において、児童に学校や学級生活の諸問題に目を向けさせ、よりよい人間関係や学級生活を築くために必要な議題を選び、創造的に話し合い活動に取り組ませる。実践活動にも継続して取り組ませ、一連の学習過程を繰返すことで、自己肯定感や自己有用感を高めていく。学級活動(2)(3)において、学級活動(1)の話し合いの経験を生かし、自己の目標を意思決定させ、友達からの評価も取り入れることにより、よりよく生活しようとする態度を育てる。</p>